

平成31年 成人式

1月13日、にぎわい交流施設（中央公民館）で平成31年成人式が挙行されました。この式典では、新成人が大人としての一歩を踏み出し、これからの社会を築き背負っていく節目の日であることを出席者全員で確認します。その決意を、代表のかた2名が「二十歳に思う」として発表しました。

二十歳の挑戦



森谷 和音さん
(上川原区)

本日、私たちが成人としての第一歩を踏み出すにあたり、このような盛大な式典を催していただき、誠にありがとうございます。また、ご来賓の皆様には、ご多忙のところご臨席を賜るとともに、お祝いや激励の言葉をいただき、新成人一同、厚く御礼申し上げます。

こうして私たちが人生の大きな節目を無事に迎えることができたのも、今日までたくさんの方の愛情を注いで育ててくれた家族や、熱心に指導いただきました先生方、地域の方々の温かい支えがあったからこそであり、感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、表題にも使わせていただきました「挑戦」の二文字。一見ありきたりに感じるかもしれませんが、皆さんにとって何が思い浮かぶでしょうか。新たに革新的なことに取り組み、などのように大きなものを連想するかもしれませんが、それだけでなく、些細でもなにか新たに始めることや改善しようとするのも一つの「挑戦」なのです。したがって、これまでの数えきれないほどの挑戦がある。今の私たちがいるのであり、その積み重ねがいつか目標を実現させるための糧となるでしょう。

昨年私は、大学の授業の一環でアメリカを訪れる機会がありました。私自身外国人が持つ日本および日本人の印象に興味があり、その際に現地のかた数人に尋ねてみたところ、良い面も挙がった一方で、少し窮屈に感じるという意見もありました。ここでの窮屈というのは、属する集団での振る舞いを気にするあまり周りに同調してしまいがちな日本人の国民性や、各々がある組織の中で決められたことをこなしているようなイ

メージのことで、私も共感するものがありました。そして、多様な人種と文化の混在するアメリカで実際に目にしたのは、年齢関係なくお互いに主張し合い、価値観を受け入れ、個々の意思を持って行動する人々の姿でした。このように、自ら考えてアクションを起こす行動力はまさに社会人として身につけるべき力であり、同時に私は、感受性の豊かなこの時期に、一度自分の環境をあえて変えてみることも大切だと感じました。少しでも違う観点に立つことであらゆる固定観念を見直すことができ、さらにそれに縛られなくなることが、さらなる挑戦への大きな助けとなるのだと思います。

震災から約8年が経とうとしている今、来年の東京オリンピックの開催など、日本は本格的な激動の時代であり、転換期を迎えています。私が大学で交流を図っている留学生の中には、復興に向かう日本の「今」を母国に正しく発信していきたいと語る同年代の外国の学生もいます。そんななかで、震災を経験した若い世



長期間にわたり準備を重ねてきた実行委員の皆さん。当日も司会進行や受付など、自分たちで成人式を盛り上げました。

本日は、私たち新成人のために、このような盛大な式典を催していただきありがとうございます。また、お祝いや激励の言葉をいただいたご来賓の皆様、ご臨席いただいた皆様方に新成人を代表して心より感謝申し上げます。

私は現在、大学に籍を置き、演劇に携わる仕事に向け、教養を身に着けるため、英語やフランス語、世界の文化について学んでおります。

私は、中学1年生の時に仙台の劇団に入団し、2年間活動しました。高校では演劇部に所属し、2回の全国大会を経験しました。役者として、一つの舞台を創り上げるなかで、物語のモデルとなった人にインタビューをしたり、様々な知識を学んだり、ただ演じるだけでなく、こういった働きかけが、良い表現や、人々に伝わるエネルギーになることを知りました。また、高校演劇では、戦争や震災といった社会問題と共に生きる人々をテーマに舞台を創りました。創作にあたっては、意



高平 ひかるさん
(金ケ瀬1区)

演劇を通して学び、伝える

識することで気がつく問題も多く、演じるにあたり、多くの人がこれらの問題について考えるきっかけになることを目標に取り組みしました。そして、将来は様々な問題を抱えた人たちに耳を傾け、演劇を通して、社会に発信し、観た人が考えるきっかけになり、理解してもらったりする活動を行いたいと考えております。

さて、私たちは成人式という人生の大きな通過点をここ大河原町で迎えることができました。この喜びと、これからの人生を力強く歩んでいくにあたり、やはり東日本大震災と、震災で尊い命が失われたことを、決して忘れることはできません。

あの日から、8年目を迎えるようになっています。たくさんの方の命が奪われ、心に深い傷を負った方々など、今でも震災の爪痕が見られます。普通に生活を送ることができるとの幸せに気づかされ、そして、家族を始め、友人や先生方、地域の皆様を支えられ、今私たちはここに集まっています。小学校の卒業式を迎えることができなかつた私たちですが、中学校の卒業式では、小学校でお世話になった先生方からのお祝いの言葉を頂いたり、本来小学校で歌う予定だった卒業の歌を歌ったり、本当に特別な時間を過ごすことができました。この場をお借りして、改めて多くの皆様



今年大河原町の成人式に参加された新成人は、町外から出席されたかたも含めて187名（男性102名/女性85名）。久しぶりの再会を喜ぶとともに、成人としての自覚と、将来への決意を新たにしていました。